千代田まちづくり
サポート通信
No.27
2016年5月発行

復活した千代田まちづくりサポート!

14グループが一年間の成果を発表!

2016年3月5日(土)、第15回千代田まちづくりサポート公開審査会にて助成対象となった14グループの活動成果発表会が、ちよだプラットフォームスクウェアにて開催された。

一年間の活動成果を披露するには短い1グループ5分の発表であったが、審査会では見られなかった自信に満ちた発表を見るに、こういったグループの成長がまさにまちづくりサポートだという発表会となった。

助成金額が大幅に減額されたグループもいくつかあり、当初は本当に活動ができるのだろうかと心配されていたが、その金額を凌駕する成果に会場からは驚きの声が上がった。反面、金銭面での苦労は並々ならぬものがあったとのことである。

学生が主体のグループでは、地域の人々に溶け込んで活動ができるのだろうかと危惧する人もあったが、地元の人々はもとより、在勤者だけでなく、まちへの来訪者までもその活動の中に取り込んでしまった。

想定外の活動成果があがるのも、まちづくりサポートならではの強みであるが、それは千代田のもつ高い地域の力が引き出されていることにほかならない。

休止していた三年間、区民の方々や審査会委員、サポーターズクラブのみなさまのご尽力によって、この発表会の日が迎えられたことに感謝いたしたい。

次回、第16回の公開審査会は、来る7月2日(土)、区民ホールに場所を移し行われる。

目次

【第15回助成申請グループ(発表順)】
【一般部門】(1回目)
神保町コミュニティプラザ＋共立女子大神保町Neo 2
みんなでつくるまちづくり推進協議会 2
東京高架下軌道(通称にこにこ電車) 3
神田暮らし探検隊 3
神田一八エリア振興会 4
On Any Sunday(オン エニー サンデー) 4
ユメラボ 5
チルリンピック in ちよだ実行委員会 5
NPO都市住宅とまちづくり研究会(略称としまち研) 6
神保町映画祭実行委員会 6
【テーマ部門】(1回目)
千代田まちづくりサポーターズ・ネオ 7
【はじめて部門】
グリーンネイバーフッド千代田を目指す会 7
リーブ・ウィズ・ドリーム 8
文人通りブランチ会 8
審査会委員講評・総評 9〜10
退任挨拶 11
編集室の小窓から 12
賛助会員一覧 12

審査会委員　紹介

会長　窪田　亜矢(くぼた あや)
東京大学大学院工学系研究科 特任教授・工学博士

副会長　新田　英理子(にった えりこ)
認定特定非営利活動法人日本NPOセンター 事務局長

委員　谷　眞理子(たに まりこ)
千代田区青少年委員会 会長

後藤　禎久(ごとう よしひさ)
市井人(まちびと)・斎藤月岑に学ぶ会 会長

江口　貴大(えぐち たかひろ)
興産信用金庫お客様支援室 次長

三原　久徳(みはら ひさのり)
千代田まちづくりサポーターズクラブ 会長

立川　資久(たちかわ もとひさ)
千代田区 地域振興部長

鈴木　秀人(すずき ひでと)(※テーマ部門)
公益財団法人まちみらい千代田 副理事長

編集・発行:公益財団法人 まちみらい千代田 まちづくり推進担当
〒101-0054 東京都千代田区神田錦町3-21 ちよだプラットフォームスクウェア4F TEL.03-3233-7556 FAX.03-3233-7557
http://www.mm-chiyoda.or.jp　E-mail machisapo@mm-chiyoda.or.jp

1 神保町の書店、観光、グルメ情報発信基地を作ろう！
〔神保町コミュニティプラザ＋共立女子大神保町Neo〕　一般部門・１回目

昨年10月に飲食店の一角に期間限定のコミュニティプラザを開き、神保町周辺の書店、グルメスポット等の情報を提供した。月1回、「街歩き勉強会」を行い、7人の講師を募って期間中に毎週末「神保町ガイドツアー」を7回行った。更に大判の神保町観光マップをプラザに置き、来場者がお気に入りの場所をマッピングするイベントを常設。

他に「観光案内マップ展示会～マップでふり返る神保町の10年史～」も開催、参加者に街を回遊してもらい、参加者からの地域情報も収集。地域と訪れる人との交流も図れた。

10月31日、11月1日の神保町ブックフェスティバルでは、全体で20万人以上の来訪者にも街案内をすることができた。

今年は、好評を得たマップの展示が、街の希望で追加展示が決まり、ガイドツアーも2月にアンコールツアーを開催。10年間の街の移り変わりを説明しながら、古書店に立ちより、学士会館では古書店主と対談が実現した。

計画にはなかったが、地域名品「神保町銘果セット」を300個近く完売したこと。また、思いがけず東京文化資源区構想「神保町未来会議」に選ばれ、2月に公開シンポジウムにも出席する等、様々な反応も生み出せた。

住民の方から、「街を明るくしてくれてありがとう」等と言われたが、「外部へだけでなく住民にも、もっとアピールして」と言う声もあった。町会の方の意見も伺い、交流を深めて活動して行きたい。

来年度の具体的な目標は、夏目漱石没後百周年に当たり、テーマを「夏目漱石」と定め、ツアーや街歩きを計画して継続する。漱石の作品や人となり等を通して、神保町の歴史と魅力に触れて活動して行きたい。

Q：「夏目漱石」に決定したプロセスは？

A：一人の人が提案し、皆が賛同した。漱石は錦華小に在籍していたし、神保町のテーマとしてぴったり。書店とも協働できると思う。

Q：発展した成功の秘密は何だと思うか？

A：一つずつの活動に、準備から丁寧に真摯に取り組んだ。小さな積み重ねから、活動を信じてもらえた。それがすべてでは。

Q：充実した活動で、地元だけでなく、都にもアピールできたのはうれしい。3年先にサポートが終わっても活動は可能か？継続するには、どんなサポートがあればよいか？

A：資金を生み出すのは苦手だが、助成を受けないのは自律した活動としては理想。困難だが、1つの目標ではある。いずれはと思う。

2 人的対応力（ソフト）のユニバーサル対応基準作成
〔みんなでつくるまちづくり推進協議会〕　一般部門・１回目

施設や設備のハード面、人的支援のソフト面、それにＩＴ技術の3点を中心に活動。ユニバーサルデザイン基準作りのためのフィールドワークを８回、勉強会を５回開催し、計232名の参加者があり、大変参考になった。

高齢者や障害者を含む企業の方や様々な立場の人々でグループを作り、多様な視点で町を観察。2月18日には、ある金融機関の協力で、実際にそこに障害者が行くと言うロールプレイングを行い、テーマを絞った調査・観察を実施した。ユニバーサルデザインの人的対応評価基準案が作成できた。

他に多くのことがわかったので、基準の整理、書き直しをしている。具体的には、障害者や外国からのお客様の接し方の知識も必要だが、積極的に声をかけることが大事。接客方法がわからない時に質問ができるか。サポートされる側は質問されることも有難いので、それも伝えていきたい。

また、駅のバリアフリーについての知識の大切さ。障害者を案内サポートする時に、行く先の駅との連絡にどれくらい時間が必要なのか？飲食店では、どんな料理が運ばれ、それに合うお酒は何かわかりやすく説明してほしい等の声。逆にサポートを受ける側の注意も必要との意見もあった。

反省点、課題としては千代田区の商店会との協力があまりできなかったこと。自治体とも、更に協働することを考えている。来年度以降は、評価基準をブラッシュアップしつつ検討して、わかりやすく皆さんに届けることを考えて活動して行きたい。

Q：多くの人と共に成功した秘訣は何か？

A：私たち障害者の経験から、障害者だけが活動するのではなく、色々な人に参加してもらい、一緒に考えたりすべきだと最初から考えていた。懇親会でも健常者も交えて語り、活動の輪を広げたいと思っている。
運営に関わるメンバーは今は障害者が多いが、今後は健常者と共にできればと思う。

Q：細かいようだが、会計報告を見ると助成金がほとんど使われていないのはなぜか？

A：フィールドワークと勉強会で精一杯だった。夏以降に助成金で音楽イベントを開く。

Q：参加して、知らないことや触れずに来た事が多くあった。白い杖を上に向けると？

A：白杖を上にしてクルクル回すと、「道に迷っています、たすけて」のサインです。

Q：残った助成金でユニバーサルデザイン対応基準をパンフにして配ってほしい、どうか？　次年度もぜひ活動してほしい。

A：次年度は紙やホームページでも見られるようにする。

3 にこにこ電車でつなぐ人の縁
〔東京高架下軌道（通称にこにこ電車）〕　一般部門・１回目

かつて鉄道博物館があった淡路町、須田町、万世橋界隈でミニ電車を走らせるイベント。その延長で、鉄道とまちの歴史やモノづくりを学ぶ勉強会を2回開き、1つは町の歴史で鉄道が果たした役割について。昔の話を聞きながら町歩きをして町の成り立ちも教わる。

もう１つは、ミニながら本物の電車の仕組について。鉄道科のある岩倉高校の先生から、運行システムの話を聞いた。多くの信号の意味や、甲武鉄道が日本で最初にできたことなどを知る。マニアックな内容になるかと思ったが、普通の人が聞いても興味の持てる内容だとわかった。いろんな場所で展開できると実感できたので、また新しい企画も考えていきたい。こう言った電車を走らせている団体が全国で結構あるが、関東近辺で探して連携してみたいと思い調べている。

ビッグサイトで、全国電車マニアの甲子園みたいなものがあり、そこで仲間を見つけようと出かけたが、高校生でもあり、方向性が違うことがわかり、連携のダイレクトメールも50校ほどに送ったが、反応は悪かった。大学のサークルやＳＬが好きなおじさんなどにアプローチして、今後交流できるようにしたい。

実際の運行は、御茶ノ水ワテラスの広場で、イベントとしてやった。他のイベントとタイアップすることで多くの集客ができた。今後は、地域のローカルイベントと一緒にやっていくのが良いと思った。

活動成果のまとめは、写真なども撮ったのだが、まだできていない。支出については、当初の予定より少なくて済み、勉強会と乗車料金も収入として考えていたが、実際には取るのに抵抗があり、無料とした。その収入がなかったのに、会場を借りる費用が高く、それが課題であると思う。

Q：人気のワテラスの会場費が15万と高い。特に東京では場所に困るのではないか？

A：今回は助成金を頂いていることもあり、無料とした。今度の連休にはワテラスからオファーがあったので謝礼金が得られる。番町からもお話がある。保育園や商店街などではボランティアでやるが、企業などの宣伝になるときは謝礼を貰うと言う考え方でやるつもりだ。

Q：鉄道の話等で、電車オタクでなくても、勉強になる、一般受けするような、女性も喜ぶようなものになるのか？

A：そうなるようにしたいと考えている。勉強会の内容をまとめる時、子供が読んでもためになるようなものになると良いと思う。

4 冊子制作を通じた地域資源の発掘と、20年後の担い手づくり
〔神田暮らし探検隊〕　一般部門・１回目

住民と協働して地域情報誌を作ることで新旧住民のつながりを作り、地域資源として残す活動。対象地域に神田多町２丁目を選び、「神田暮らし調査」で町の方々からインタビュー。次に「超多町探検」という町歩きツアーを実施した。調査でわかった町の資源を伝え、共有して、35名の参加者からアンケートをとった。

追加の活動に参加型情報センター「UCHICUL」を設置。神田錦町のビルの跡地にテントを張りキャンプする「アーバンキャンプトーキョー」で情報掲示板「UCHICUL」を置き、皆様からの情報を集める試みをした。年末に参加者の懇親会「超多町パーティ」を開催。つながりを更に強めるべく交流した。

最後に住民と協働で、地域情報誌「多町Zine」を編集、製作中。これを完成させ、3月末には住民発表会を開いてマンションにも全戸に配布する。これが、新住民の方が町づくりに参加するきっかけになればと思う。

「多町Zine」の中身は、神田多町には多様で複雑な地域資源があるとわかり、縦軸に歴史が、横軸には空間がある。どこを採ってもおもしろい。これをいかに伝えて行こうかと考えた。多町の振興、つながり、商人のまち、日常、誇り。この5つの資源を伝えていこうと、5つの色を設定。多町を上から見た「まち図鑑」ができ、各部の最初に載せている。

多町の地域を通りでわけ、それぞれを章立てにした。自分たちで執筆したり、町の方々にも寄稿して頂く。インタビューしたものもまとめる。新規住民の方が大勢集まった多町再建の様子や、活動を機に町会に入った方の感想等の記事。様々な視点で今後、まとめて行きたい。

Q：出来上がった冊子は、どうやって配るのか？参加者同士がうち解けないのはなぜか？

A：呼びかけのビラもマンション全戸のポストに入れた。参加者には中身を説明して手渡す。店先にも置いてもらう。
「超多町パーティ」のように気軽に感想など語り合う雰囲気をつくる場が必要。冊子にも近隣の方に記事を書いてもらう予定だ。

Q：活動により変化する町の人を、どう見守って行くか？その方法を考えているか？

A：町会に入っていなかった人が町会に入る等、変化は出ている。町からコミットして頂くことも考え、町の担い手を生むまで工夫してやって行きたい。

Q：参加者の平均年齢は？

A：平均は40代、30代から60代で、参加者は10数人くらい。外部からの方もいたが、地域の方と関わることが重要と感じている。

5 神田一八エリアを中心に「食」をテーマにして人が触れ合う活気のある街に
〔神田一八エリア振興会〕　一般部門・１回目

活動成果としては、一八マルシェを、昨年5月から毎月1回開催し、計9回で850人の参加があった。神田一八エリアで産直野菜・産直加工品の販売とミニ縁日を行う。生産地の視察は2回、千葉県富浦のビワと静岡県三島のマンゴーの生産地をご紹介頂いて、見に行った。

千代田小学校では、4年生～6年生の30名の子供達で野球教室も開催した。野球が初めての子もいたが、元野球選手の方2名をお呼びして喜ばれたし、次第に仲間を応援したり、笑顔が見えて、こちらも笑顔になった。

また、一八デ―のスタンプラリーは、1月11日～3月31日までに計7回、飲食店周遊イベントとして実施。他に、地域を知るための勉強会も3回開き、地域活動やイベント活動に詳しい講師をお招きして開催した。

1年間をふり返って、継続的に活動できたことが良かったと思う。その中で町の皆様の励ましやご意見が頂けた。中には貴重な苦言もあり、それも含めて財産となり、これからの活動に活かしていけると思っている。自分たちの知らないことをいろいろ勉強させて頂いたことに感謝している。

改めて気づいたことは、町の笑顔づくりは自分たちの笑顔づくりだということ。当たり前のことだが、責任を持ってきちんと活動し、笑顔で挨拶をしたり、そんな普通のことも楽しい経験だった。時には悩んだり、壁にぶつかったりもしたが、とにかく1年間で土台ができたと自信もついた。

来年度は、更にこの活動を広く知ってもらう努力をし、一八エリアの更なる活性化を展開して行きたい。

Q：何か悩んだことはありましたか？

A：一八マルシェは平日に開店していたが、今年は最終日曜日に行った。オフィスの人が多いが、それ以外にもいろいろな人に来て頂けるためだ。オフィスの人は、野菜などは重いと持って帰れないとか、地元の人とは異なる事情がある。当然、求める物も違ってくることを知り、様々な反応があることを学んだ。

Q：助成金は3年間で終わる。その後もぜひ継続してほしいが、先の考えはあるか？

A：具体案はないが、住民の方と町を１つにしていきたい。チャレンジ精神で継続する。

Q：他の団体とコラボしたのもよいと思った。更に路上での開催等も視野にやってほしい。

A：それは来年度の大きな目標として、頑張りたいと思っている。

6 ものづくり、表現活動支援、及び地域コミュニティの活性化
〔On Any Sunday（オン エニー サンデー）〕　一般部門・１回目

岩本町の飲食店OnEdrop cafe.で、定休日の日曜に皮職人、パン職人、イラスト、衣料品デザイナー等や音楽、アート等の表現者の方が集まり、作品の一日だけのセレクト・ショップを開催した。

今年度は計７回開き、毎回10組の出展者、３組程新しい会員が加わった。飲食しながら参加者同士やお客様とも交流が生まれ、ビジネスにもなった。

出展者にはアマもプロもおり、アマの人にとっては次のチャンスが生まれる場所にもなっている。地元との連携をもっと広げ、つなげるという目標で活動したところ、参加者のメンバーが町会にも入ってくれた。

そのご縁で千代田区の体育大会や、防災防犯の夜回りにも参加。地道な活動により人的交流が生まれ、地域の方々もこのイベントに顔を出して下さった。年末にイベント「東東京大忘年会」をやったが、夜回りの前後に参加もできた。

課題としては、地域住民が多種多様で、入れ替わりも激しい賃貸住宅や、以前から地元で仕事を持つ住民、他の地域から来ているオフィスワーカー等、各々にどうアプローチするか。広報活動や異なる要求をどう受け止めるか、毎回試行錯誤でやってきた。

出展者の選定にも力を割いた。例えば青木賢三さんというスティールパンの奏者の体験イベントとして、ミニワークショップも開き、子供達にも楽器に触らせて頂いたりした。改善しながら今後も続けたい。

Q：休祝日等、お店へ来る人や前の人通りはどうか？

A：平日にもほとんど人通りはない。夜には一方通行の通りはトラックが走り、私の店にも一見の客が来ることは少ない。休祝日は会社が休みになるので、より人通りはない。最近は賃貸マンションもでき、若い方が増えてお店も増え始めた。

Q：今後、どのように広げていく考えか？

A：ネットを中心に広報したが、意外と伝わらない。チラシを各戸のポストに入れたり、協力店舗に張って頂く。今後は他店舗や道路での開催、出展も考えていきたい。

Q：集客にプロの知恵を、ボランティアだからこそ借りて行くことはできないか？

A：そういう人材も思い浮かぶので、ボランティア感覚で依頼できないかと考えている。

Q：夜回りに参加した経緯は？

A：地元で特に若い人材が不足していると聞いたので、お役に立てればと思った。

7 千代田　RE：DESIGN　計画
〔ユメラボ〕　一般部門・１回目

御茶ノ水駅前のお茶の水茗渓通り会を中心に活動。アートピクニックの空間構成を目的に屋根付きワゴンを設計し、丸善の店頭販売のレジワゴンとして使って頂いた。それが、10月に壊れてしまい、引きとることになり、その修理とメンテナンスに取り組んだ。

モノづくりを中心に活動、学生として何ができるかを模索してきた。千代田区観光協会の森川さん、首都大学東京の饗庭先生、建築家の西田先生などに相談してアドバイスを頂いた。町の人達が何を求めているか、学生の枠に縛られない視野でまちづくりに貢献できないかを考えた結果、やはりモノづくりを中心にして、何がつくれるかに取り組んだ。

お茶の水アートピクニックに毎年参加しているが、そのお祭りで使われるワゴン等が残って、人の集まる町に当たり前の物として存在する。そういうモノづくりで町に貢献できないかと考えた。ワゴンの修理も皆さんが自由にアイディアを付け加えたりする。

今回もお店の方が、ライトを付けよう、もっと棚を付けよう等とアイディアを出してくれて、アレンジメント可能な物やメンテナンスのしやすさを考えて改修した。デジタルファブリケーションという、木材を自由にカットして作る手法での「新しいモノづくり」の初めての試みは最終的には「改修」になった。

材料などについても学者や専門家にお話を伺い、造り直しのアドバイスも頂いた。物は施工上の問題として壊れてしまう事もあると知った。助成金の5万円は、メンテナンスや改修費に使われ、不足分はお茶の水茗渓通り会から出して頂いた。壊れたワゴンを処分するのは勿体ないので今年のお茶の水アートピクニックにも使うことができないか検討中。

この新しい試みを広め、千代田の一般の方にモノづくりを伝えていきたいと思う。モノづくりがまちづくりにつながると言うことの証明になればと考えている。

Q：このワゴンはシェアできるのか？

A：できるが、動かすには修理が必要。

Q：千代田区内でも貸し出しは可能か？

A：宣伝にもなるし、ぜひ利用してほしい。

Q：路上を開放しての活動は考えているか？他とのコラボも含めて、ぜひ実現を。

A：お茶の水アートピクニックの人達と、実現すべく計画している。

Q：新しくワゴンを作るには問題があるか？

A：一番は、重量の問題。軽量化を図るつもりだ。車輪で動かすのが大変で、修理が困難なので、故障が無いように作る必要がある。

8 世界中の子どもの国境を越えた出会いを、遊びを通じて実現する『チルリンピック』の開催
〔チルリンピック in ちよだ実行委員会〕　一般部門・１回目

10月31日に目標の「チルリンピック inちよだ」の開催。神田錦町の東京電機大学跡地でトランスアーツトーキョー・コマンドN様、神田スポーツ祭りの皆様と連携して行った。大使館や国際交流センター等にチラシを置かせて頂き、700名ほどが集まった。子供達と家族、若者に遊びで国際交流の機会を設けることを目指したが、まずは達成できた。

来場者からの声にもあったように、千代田区にはまだまだ遊ぶ場が多いとはいえない。大人も子供も楽しめる町として、地域の魅力を発信していきたい。

西神田の児童センターでの「こども縁日」にも応援に参加してゲームなどをやり、今後の活動の参考になった。また、農林水産省主催の「日本食PRツアー」に参画、内外国人メディア向けで丸の内エリアでは、2名参加して拙い英語で日本食の紹介をした。

SNSで見つけて神田秋葉原エリアでは、外国人観光客観光ガイドを中国人のグループにさせてもらうこともできた。

今後の課題は多く、運営体制、コンテンツのクオリティを上げること、場所と子供たちの安全面も考えること。ご指摘も受けたが、やはり安全管理は第一だと思う。

Q：英、米、仏、中国など、外国の子供達は何人くらい参加したのか？

A：外国人の子供達は、15名くらいだった。ご家族で来られた。

Q：1年やそこらで成果の出ることではないので、始めたことに意義がある。焦らずに長いスパンで見て、今後とも活動を。

A：2020年に向けて、徐々に活動を積み上げ、来年度もやって行きたいと思っている。

Q：今後の運営展望をぜひお聞きしたい。

A：今回のメンバーの半分は社会人として働いており、私自身も就職して正社員になり、活動方法も再検討しなければいけない。実際、主に動けるのは土日だけ。今後、公募の仕方や集まる期間、回数など、まだ白紙の状態。

Q：今後どういう仲間を増やし、どうやって集めるか、このまちサポの場でもその知恵をもらってはどうか？

A：当日は30名のボランティアがいたが、準備するまでのメンバーには苦労した。
（会場から：スポーツ祭り運営委員？さん）＝スポーツ祭りに参加してもらったので、また今後もぜひコラボしてほしい。

A：こちらこそ、よろしくお願いしたい。

9 地域主体で運営する「（仮称）東松下町コミュニティカフェの実現に向けて」
〔NPO都市住宅とまちづくり研究会（略称としまち研）〕　一般部門・１回目

東松下町々会コミュニティ委員会では、千桜小学校跡地の再開発事業に伴い、急増する新住民を迎え入れる体制づくりを行ってきた。誰でも気軽に立ち寄れる「みんなの居場所」づくりの実現にむけて活動。前半は、事例視察やヒアリング。5つのコミュニティカフェを訪ね、中心メンバーにお話を聞いた。大型マンション自治会と町会の方にも、具体的な展望や課題を伺った。

それを元に実際に候補物件を探し、所有者や管理者の方にご相談したが、実現には至らない。そこで後半は、「お試しプログラム」として、できることからやることにした。

12月に町会餅つき大会を開催、その一角で町内の野菜作りの方の協力で「ミニマルシェ＆フリーマーケット」、「葉っぱスタンプづくり」などを行う。としまち研会議室を借りてミニ上映会、3月には様々なワークショップなどを予定。月に1回の委員会ではそれらの報告とプログラムの企画、検討をした。随時、アイディア募集もボードで行っている。

地域での情報交換や交流により、具体的に役割分担等アドバイスも頂き、期待していると励まされて自信も生まれた。そうした情報をどう伝えるかと考え、12月より「コミュニティ委員会通信」の発行を開始。案内情報や活動報告、寄せられたアイディア紹介等を発信していく。お誘いを兼ねて町会のホームページも準備中、入会のルール等も明確にして5月頃には公開できる。3月末には活動の記録「vol.1」の編集完成予定。来年度は更に顔の見える関係で活動を継続し、場所も探して「みんなの居場所」づくりを実現したい。

Q：羨ましいような活動で、他の地区にもそのノウハウを伝えてほしい。リーフレットの300部は住民の方に配るのか？

A：町会入会者以外には、まだ配れない。地域を網羅するのは、今後の課題かと思う。

Q：成功したコツは？苦労されたことは？どんな会議をして思いを共有してきたのか？

A：若い人はサラリーマンが多く、夜7時以降でないと集まれない。やはり親からの勧めで入ってくれる人がコアになる。子供時代の楽しい体験が基本になって、同世代のママ友等に伝わったり、メールしたりして広まる。2、3週間に1度くらい集っている。

Q：他の団体でも新旧住民の交流は共通のテーマだ。成果を共有して来年度は更に交流し、ノウハウを伝え合い、積み上げてほしい。

10 ミニシアターの街・神保町から「映画文化振興」と地域活性化を目指した映画祭を行う
〔神保町映画祭実行委員会〕　一般部門・１回目

「第1回神保町映画祭」を10月、2日間にわたり開催。1日目の上映会に予想を上回る応募総数163作品。最終選考7作品から観客投票でグランプリ、準グランプリを選んだ。2日目、受賞作品の上映と受賞式。来場者は500名以上となる。

予定のワークショップの開催は招待作品の上映会に変更。観客にも、ゆっくり映画鑑賞と周辺の散策をして頂けた。賞の二次審査に町の人審査会を設け、地域の方と交流した。

12月から毎月、「神保町映画祭リターンズ上映会」を開催。スタッフの運営面の精度を上げ、交流も深める。第2回の映画祭に向けての顧客づくりにもなる。

新春特別企画で第1回グランプリ、準グランプリの監督の対談。今後の映画祭に向け、千代田区のロケ地としての魅力を語り合って頂き、新しい気づきや課題も教えて頂いた。

3月から第2回の公募開始。テーマとロゴが確定し公式HPで公開。2回目のテーマは、「あい・ことば」。163作品の応募作すべてに講評をお送りした。きちんと言葉で返していくことが大切で、それがクリエーターを育み、映画祭自体も育み発展して行く。人間関係も「あい」のある言葉で育って行くと考えた。

新たにメンバー8人による広報チームを結成、事務局も立ちあげ、その下に部門を設け、体制を強化。毎月定例会も実施している。収益は黒字になりほっとしているが、来年のエントリー料その他の収入の見込みは安心できない。映画祭作りのイメージを広報で宣伝して行くことが必要。スポンサーを得る営業等、地道な活動が欠かせないと思っている。

「あい・ことば」のテーマもそうだが、皆さまにきちんと言葉で伝え、言葉によって育まれる関係性、交流を大事に、もっと町に還元して行ける映画祭に育てて行きたい。

Q：千代田区のロケ地の紹介をHPでも見れるようにと話したが、どうしたのか？

A：作品の発表の時期は、海外や他の映画祭に出すには規制があり、ネット上の配信や有料上映を行うとプレミア上映にならない。時期を相談しながら行っていきたい。

Q：千代田の魅力とは何かを追及してほしい。

A：神田や神保町に初めて来て古書店街に驚いた。歴史や文化の香りがする街の、歩いただけでも感じる感覚を伝えて行きたい。

Q：映画祭を少ない予算でよくやってくれた。来年は多く予算を組み、ジャンプしてほしい。

Q：更にミニシアターの建設も視野に、3年後には古いビルの空き室でのリノベーションまで構想し、そこを拠点に活動してほしい。

Q：「あい・ことば」とは、「愛」？それとも、「合言葉」？

A：テーマは広く自由に解釈してかまわない。こちらの意図は説明した通り。

11 千代田まちづくりサポート　ボトムアップ計画
〔千代田まちづくりサポーターズ・ネオ〕　テーマ部門・１回目

1年間、まちづくりサポートの体制強化を目標に卒業団体やまちみらい千代田の皆さんに会い、アンケート等を実施。問題や課題をまとめる。

先ず1つは、助成制度自体が団体のニーズにあっているか、見直しや改善をする必要性。2つ目は、公開審査会や中間、成果発表会の運営や企画の充実、強化。3つ目は、更なる広報活動の展開、実行。

4つ目は卒業団体からのもので、卒業後の支援の要望。持続のための新しい取り組みを。最後に、5番目、中間報告会の他に、団体間の交流や地域とのつながりの場を持ち、人材と情報やネットワークをストックしていく。

このまちサポ事業は活動の資金のみの補助、支援だが、物、人等の支援も考えて行く。そのために、1、2、3の既存の取り組みを更に強化し、4、5の新しい仕組みを付加していく。

以上の5つをまちみらい千代田だけでやるのは困難、私たち外部の支援団体がそれを担い、推進して行く。特に5番目の交流の場を作るのが我々の役目だと思う。活動に関わる人をいつでも紹介でき、いつでもノウハウを伝える、この2つを特にやっていきたい。

そこで理事長さんにもご意見を伺い、4月から、「千代田まちづくりプラットフォーム」（仮称）の法人化を決めた。私達の宝を増やし、事業も拡大して、協力、協働の関係を作りたい。

Q：法人化のことは、ほぼ方向性が一致。今後、第2期の新しいまちサポの在り方を相談した。来年度への決意のほどを伺いたい。

A：活動団体のメンバーに会ったが充分なことはできなかった。卒業団体や行政、企業等広く交流の場を設けたい。将来はまちサポの担い手になれればと思っている。

Q：一般社団法人となっても、多くの人を巻き込めるかが大事。結局は人づくりが重要なのではないか？ 活動報告書はまだか？

A：活動報告書は、更にブラッシュアップして制作中。交流の場を増やすことを最大目標に、支援団体としての基盤をつくりたい。

Q：各々活動もあり、時間的、現実的に厳しい。実益やメリットは何かを示してほしい。

A：交流とは主に研究会。福祉、水辺、教育等の問題を学び、区内の団体と共に定期的な会を持つ。場所は、プラットフォームスクウェアを拠点とする。行政や企業、学生にも声をかけ、地域住民とのネットワーク化、デ―タ化をしてストックする。

Q：困った時のお助けマンとなって、各団体メンバーとつながる活動を、ぜひ。

12 エコ婚活による子育て世代と、次世代の街づくり
〔グリーンネイバーフッド千代田を目指す会〕　はじめて部門

千代田ファンを増やし、未来の住民を増やすために、千代田の魅力的なエコスポット（環境に配慮した施設）を伝えていく。街づくりや環境問題への関心を高めて、参加を呼びかける。最終的には、同じ価値観を持つ男女が出会い、結婚して住んでもらう。そのような目的のための活動の第一歩。

まず区内のエコスポットを巡るエコツアーの開催を考えていたが、参加者が自分の希望の場所を自主的に決めるワークショップに替えた。協働作業の中で、その方が参加者同士の交流が図れると考えた。

第1回の会議でどこを巡るか語り合い、各自の好みを伝え、例えば本が好きなので神保町の本屋街だとか、緑のきれいな大手町の森、新しくなった丸の内や皇居周辺等をあげる。最終的には、大手町・皇居・神保町といった千代田区の有名スポットが選ばれた。

第2回目に、実際に街に出て、自分たちで選んだコースを歩いた。参加者は在勤者が多く、緑の多い都心の魅力、街路樹や野鳥にも気づいた。また、神保町のカ―シェアリング（駐車場や電気自動車充電施設での）やオーガニックの店でワインや日本酒、チーズ等を発見して購入し、懇親会も開いた。

参加者は千代田区の環境や知らなかったことに興味を持ち、新鮮な体験をしたようだ。

結果としては、残念ながら男女のカップルは成立しなかったのだが、2名の方が入会してくれた。

参加者の人数集めに苦労したので、ネオさんにも相談し、これからはメディアにももっと伝えていきたい。

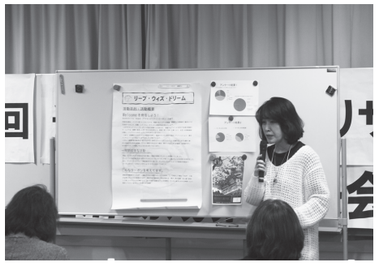
Q：最初から「婚活」を出すというのは、どうも参加しづらいのではないか？結果として、くらいがいいのではないだろうか。

A：グリーンマップづくりを打ちだした方がよかったのかもしれない。次は主力をそれにむけるべきかもとは思う。

Q：人を集めるには、先ず、会の信用を高めること。まして婚活ならなおのことだろう。とにかく会の魅力や信頼性をパンフレット等で表現し、会や会員の透明性や安心感を与える必要がある。そのための工夫をすべき。

A：ターゲットが狭すぎたのではないかとも反省。やはり信頼を得ること、もっとアピールすることが重要だと思った。内容をきいて「それなら、行きたかったのに」等と、知人にも後から言われたという意見があった。口コミや、西神田町会（街コンを実施している）との連携も考えて行きたい。

13 Accessibility Coupon（アクセシビリティクーポン）〔リーブ・ウィズ・ドリーム〕　はじめて部門



７年間、バリアフリーマップを作成し、発信してきた。その活動の中で、ただバリアフリーの店舗や施設を一方的に知らせるだけでなかったかという反省点が出た。それだけでなく、店舗側からの発信、たとえば「店舗はバリアフリーになってないけど、心はバリアフリーだよ」と言う声が会員から寄せられ、そういうウェルカムの気持ちを発信できる方法はないかと考えた。

そこで障害者スポーツ団体の方等にアンケートを実施。来年度にかけて、いくつかのクーポンの案を作った。クーポンサイト等からではなく、実際に行きたいお店や商店会のチラシ等にクーポン券を付けると、安心して受け取れるという声も聞いた。

今回は、さくらまつりに向けてカフェなどに置き、車椅子やベビーカ―の人が、寒い中に外で並ばなくても受け取れるようにした。他にも、スポーツ関係の団体を主宰する人から、障害者の人を優遇するようなクーポンをつくりたいというアイディアを伺った。

来年度は、具体的な企画を提案し、来年度に作る地図等へも、どこかに載せられないかと考えている。

Q：アクセシビリティクーポンは発行されなかったが、まだ有効で、実現可能なのか？それとも、違う方向で考えるのか？

A：今年度は断念したが、まだ、形ははっきりしないものの、周りの目を気にしてか「（障害者ということが）人にはわかりづらいクーポンにして」等というご意見を伺った。更にいろんな方の声を伺い、方向性を考えたい。

Q：長年取り組んだ貴重な活動なので、進め方の会議の実施メモ等でも公表すると、他の団体にも参考になるし、もっと広がりや、つながりができるのではないか。

A：活動の幅を広げ、主旨や透明性を確立するためにも、5月にはNPO法人に申請する予定。その時は情報をオープンにする。その結果、千代田区のバリアフリーの浸透状況をよりアピールできればと思う。その時にはまた、よろしくお願いしたい。

Q：障害者の方からではなく、障害の見えにくい方にも一般の人が気づいて申し出ることの可能性が大切では。健常者が考えるべき問題なので、何か良い方法はないか？

A：パラリンピックもあり、４月から障害者差別対処法？が施行される。それに向けて、商店街や千代田のまちづくりにも重要なので、ぜひ頑張りたい。

14 番町麹町地域の交流の場　提供〔文人通りブランチ会〕　はじめて部門

この１年、ブランチ会を２か月に１度、計５回開催。麹町の住民の交流の場を提供したいと活動してきた。和やかな雰囲気で参加者と楽しい時間を共有する。親子３代での参加もあり、子供たちも喜んでくれた。

カフェの店主の協力で日曜日の朝に美味しいブランチを食べ、和気あいあいの雰囲気で絵画やコーラスも愉しむ。予定外で、最後の２回は室内楽演奏も楽しみ、参加者持参のワインを皆で頂いた。３月６日は第５回目の会で、この地域で音楽活動をしているグループのライブ演奏。最後は皆で歌を唄って終わる。

これからの課題は、今まで通りの雰囲気を保ちながら、参加者とも話し合い、この地域に合った会を続けること。今後は多趣味、多芸の参加者に講師を頼み、いろいろな会もやりたいと思っている。このカフェだけでなく、他の場所でも同じ主旨の会を同時開催できればいいなと願ってもいる。

また、会を重ねるためにも、誰もが参加しやすい平日や日曜日の午後にも開けないかと考えている。課題は参加者の数で、より効果的な周知の方法。知人や近所のお店にチラシを置いて頂いたが、更にヒアリングなどして工夫する必要がある。定期的に日時を決めて開くこともリピート参加者を得るために大切。カフェの前に看板をつくって会の主旨等を書いて置くことも試みたい。

今年度は土台づくりとして、楽しめる居場所をつくる目標でやってきた。好評で、何度も来てくれる人や、お手伝いの申し出もあった。参加者の自発的な発想も活かし、参加者本意の視点に立つことが、長く無理なく続けるには大切なことかと思っている。

Q：報告書の「まちづくりとは押し付けられるものではなく、まちの人々が自分たちで作りあげていくものだと実感した」というのはすばらしい。参加者の目標人数は？長く続けるにはメンバーの新陳代謝も必要では？課題を掘り下げ、疲れないように継続を。

Q：マンションに籠っている人々をどう誘い出すか？区内のマンション・カフェともコラボして、ぜひ交流をしてほしい。

Q：高額な外注料理などは参加者に費用を出してもらうのはどうか？

A：高齢者にはブランチより、気軽さを考えると、お茶とお菓子くらいがいいのかもしれない。アドバイスも有難く頂き、今後の課題として検討したい。

審査員講評

谷委員

皆さま、本当にお疲れさまでした。

全てのグループで成果が出て、どれひとつとして挫折した活動がなかった。これは凄いことだと思います。少ない助成金にもかかわらず、きちんとやっておられて、とても感心しました。

今日の成果発表会も聴いていて、皆さまの思いが伝わってきて、楽しかったです。ほんとうにありがとうございます。

やはり、一番残念で悲しいのは、私の地元の麹町地区で、活動があまり活発ではなく少ないということです。いつも言っていることですが、来年度こそ千代田まちづくりサポーターズ・ネオのような力強いグループが、麹町地区にもできるといいなと思います。

困った時には、何かの時には、ネオの本郷さんがいらっしゃるので、本郷さんに相談して、審査会に団体として応募して出よう、というようなグループが生まれるように、後ろから押していこうかなと思っています。

そして私も、応援のアピールをしていこうと思います。

ですので、本郷さん、よろしくお願いいたします。

その他のネオの皆さんも、よろしくお願いいたします。

私は、今日で、７年間務めさせて頂いた審査員を退任いたします。長かったのですが、途中でお休みもあったりしましたが、本当に楽しい７年間でした。

皆さま、ありがとうございました。

江口委員

皆さま、今日はどうもお疲れさまでした。

私は、今回はじめて、審査委員を務めさせて頂きました。ありがとうございました。

実際に関わらせて頂いて、改めていろいろな活動があることを知り、感心いたしました。

皆さまの活動には、私自身は仕事もありまして、残念ながら実際に参加することはできなかったのですが、ホームページやフェイスブックなどで、随時、拝見させて頂いておりました。

それも、とても楽しみなことでしたので、今後も、次々にいろんな活動を発信していって頂きたいと思います。

また、この席で、今日の発表を聴いておりますと、皆さまそれぞれに、課題も出て来ているようですが、共通しておりますのは、特に活動の時期とか、情報の交換とか、人材の確保にご苦労されているようです。

その辺りは、今後やはり、またネオの本郷さん辺りにご相談しながら、大変かとは存じますが、さまざまなハードルを乗り越えられて、やって行ってほしいと思います。

２年度、３年度と、持続されるにつれて、ここから、どんな活動が出てくるか、それがどのように発展、展開していくのか、とても楽しみにしております。どうか、また頑張って下さい。

ありがとうございました。

三原委員

お疲れさまでした。そして、ありがとうございます。

今日、皆さんお聴きになっていて、おわかりになったと思いますが、各グループのテーマや、最終目的、やり方、方法等は、当然ながら、それぞれ違うのですが、しかしよく考えて見ると、本質としては共通するテーマが多かったなと言う気がします。

ですからそこに、互いに交流する意味も、また可能性もあるかと思われます。

それを、ぜひ、公開審査会第16回目からの第２ステップで、自分たちの活動の深まりや広がりに、必ずつなげて行ってほしいと願っています。それが活動を継続するためには、大事なことかと思われます。

講評としては、それが一番申し上げておきたいことです。

実は、今日、この場をお借りして、皆さんにご紹介したいのですが、『サポート通信』というのが発行されていまして、３年前、25号が出ています。この公開審査会、成果発表会の様子を約12頁の冊子に記録としてまとめている冊子です。これは、勿論、ご存じの方も多いかと思います。

千代田まちづくりサポートが第14回でお休みをして、3年ぶりにご承知のように第15回として復活しました。それで、昨年、8月に『サポート通信』26号が久しぶりに発行されました。

その2号から、編集に関わってこられて、復活に際し、26号からもカムバックして編集していただきましたのが、後ろの記録席におられます、柏原さんです。

長年、我々と共に関わってこられ、ずっとこのまちづくりサポートを見て来た方ですので、最後に何か一言伺えれば、皆さんの活動にも参考になるかと思います。

柏原さん、後ほど、よろしくお願いいたします。

後藤委員

1年間、御活動、ご苦労さまでした。

今回、発表を聴いておりまして、やはり、人数の少ないグループと言うのは、大変だなと実感しいたしました。

テーマとして同じような考えを持っているなら、一緒に集まってやるといいのになあと思うグループもいくつかありました。

そういうグループ同士、来年度にはコラボしたり、協働したりとか、考えてみてはいかがでしょう。

一つだけ、「キーワード」を申し上げると、僕の「キーワード」は、「継続」なのです。

実は、私は今、1年目の審査員として、ここに座っておりますが、このまちサポ活動の初期の頃に、応募して、2年間活動させてもらったグループの一人です。

「斎藤月岑に学ぶ会」と言う会ですが、未だに続けております。

それほどしょっちゅう集まっているわけではありませんが、集まると未だに情報交換をしたり、街歩きをしたり、活動を続けていて、年に1回、会報を出しております。

これが結構、大変なんです。締め切り間際になってから、物を書くのが速い人や慣れている人は、すぐ書けるのでしょうが、私は筆が遅いもので、それこそ1年間かけて構想を練るというような具合です。実は、それが楽しいのです。

ただ、本当に継続と言うのは、「力」だと思います。ここで、このまちサポで活動が3年間で終わったから、活動はおしまいというのではなく、ぜひ継続してほしい。活動を継続し、仲間ともお付き合いを続けてほしい。

それが、私の気持ちです。簡単ですが、講評といたします。

どうも、お疲れさまでした。

新田委員

皆さん、今日は本当に長い間、お疲れさまでした。

私も、実は谷委員より、1年くらい後輩で、5年くらい関わらせて頂いております。私自身、この公開審査会、中間・成果発表会を伺って、学ばせて頂いております。

私は今日お聴きしていて、すばらしいと思ったし、皆さんにぜひ自信を持って頂きたいと思いました。というのは、皆さんのやっている活動には、「正解」というものはないし、誰かが答えを持っているわけでもないし、もし答えがあるとすれば、それは皆さん自身なのです。

市民活動と言うものには私自身も関わり、それを本業としていますが、これがすばらしいのは、多様な価値を、多様に認めようとしていることだと考えています。ですから、皆さん自身が何かを信じて、だからこそ仲間を募って、よりわかってほしいと思って活動することは、とてもすばらしいということです。

そのことを、「市民の専門知」などという言い方をされる方もおられますが、それをぜひ信じて、この活動を続けて頂きたいと思っています。

ただ、時代状況の中で、すごく「プロ化している市民」というのも生まれています。NPO法人というものにも、私も携わっていますが、「食べていける市民活動」という考え方もあります。そういうのも作れるとは思うけれども、素人がどうだとか言う問題ではなくて、むしろ、そこに誇りを持って頂きたい。

ぜひ、チャレンジをする時に、いろいろ考えて、議論して、仮説を立てたら、それを実験してみて下さい。この助成金制度の良い所は、実験できることだと思います。ただ成功するために委託事業を取って来る訳ではないので、もし失敗したら、また戻って大胆に仮説を立て直して、実験したら良いのです。

失敗を次のチャレンジにつなげていくための助成金だと言ってもいい。私は、そう思っています。その助成金の蓄積が皆さん自身の実になっていけば良いので、ぜひ、失敗を恐れず、どんどんトライしたいことに仮説をたてて、やって頂ければいいと考えています。

今回は、まちサポを再開した1回目ですので、私自身は、また、次に皆さんとお会いすることをすごく、楽しみにしております。

おもしろい企画を出して次回に持って来て下さるのをお待ちしています。

どうぞよろしくお願いいたします。

【総評】　審査会会長　窪田亜矢

お疲れさまでした。

とても楽しいひと時を、どうもありがとうございました。今日の成果発表会を大変楽しく聴いておりました。

全14グループ、それぞれ、本当にいろいろなテーマがあって、驚きました。例えば、ユニバーサルデザインなど、障害者のための公共的なものもあれば、新旧住民の交流などのまちづくりデザインもあり、また、ニコニコ電車のような個人の趣味を活かした活動もある。そこから始まって、ここまで豊かに、まちづくり活動として展開していくのかと思うほどです。

皆さんも実際やってみると、それぞれの活動には、多分、うまくいったなと思うものもあるし、そうはいかなかったなと思うものもあるとは思います。しかし、そのうまくいかなかった部分を皆さんで共有してもらいたいと思うのです。

私は、今月で退任いたしますが、ここで最後にお伝えしたいことは、それぞれのうまくいかなかった所をこそ、皆で共有する、と言うことの大切さです。

成功した方は、たいていご自分でもわかっていて、手ごたえもあるでしょう。大事なのは何かと言えば、皆さんには、まず始めに、「やりたいことがある」ということなのです。

それで、こんな面倒くさい会に出て来て、発表して、活動のプロセスでは、地域の方とうまく巻き込まれたり、巻き込んだりしながら、やりたいことがどんどん洗練されていって、発展して、しかもやりたいことがぶれない。テーマがやはり、次第に深まっていく。これはすごいことだと思います。

先ほど、委員の後藤さんがおっしゃったように、グループの人数が少ないと言うのは、辛いものです。疲れます。でも、一番何が大変かと言うと、話し相手が少ないことです。話し相手が少ないから、対話が少なくなる。すると、テーマがなかなか深まらなかったりすることです。そこの対話が無いので、最初の段階から先になかなか進んで行かないので、立ち止まってしまう。困ってしまうわけです。

そういう時には、やはり、後藤さんとか、ネオさんとか、一緒になって考えて下さると思いますので、そういう頼もしい対話の相手がおられますから、そういう人に跳び込んでみて下さい。自分の思いをぶつけて、ぜひ、対話してください。そうすれば、きっと何かが拓かれます。道が見えて来ます。

そして、もう一つ大事なことは、そこでのやり取りをきちんと記録して、それも多くの方と共有できるようにすることです。それをベースに練り上げて、来年度、また、この場に企画として持って来て頂くということが重要かと思います。

本当に今日は、一日、ご苦労さまでした。そして、ありがとうございました。

※なお、立川委員におかれましては、体調不良のため、当日、欠席となりました。

【退任挨拶】　三原委員

千代田まちづくりサポート事業は2年間の休止期間があったのですが、これを復活できれば、それでもう、私の役割は終わったなと思っていました。長い間、愉しませて頂きました。ふり返れば、いろんな思いが蘇ってまいりますが、とにかく、今は、役目を果たせたことに、ある満足をしております。

しかし、この活動、仕組みは、これからも持続されることに、より大きな意味があるものと思います。持続され、更に展開することこそすばらしいと思われます。

どうか、みなさん、頑張って、未来へつなげて下さい。公開審査会の時にも申し上げましたが、これが私の遺言です。

私も、また違った形で、これからも応援して参ります。また、お会いしましょう。

ひとまず、お礼を申し上げます。本当に、ありがとうございました。

【退任挨拶】　谷委員

まちづくりサポートに、最初は、「子ども110番」の活動で応募させていただきました。それから、先ほども申しました通り、審査会委員をやらせて頂きました。

来年は、また、エントリーグループとして、関わりたいなと思っております。

長い間、皆さん、助けていただいて、本当にありがとうございました。

【退任挨拶】　窪田委員

ありがとうございました。

1年目は、委員として入りまして、2年目に会長代理と言う役をやりまして、その後2年間くらいやり、その後に、会長になって、今日に至ると言うわけです。

当時の委員の方達と、訳もわからず、いろいろ議論しました。普通に集まっては、「どうしましょうか？」みたいな話を延々と続けていたものです。何か委員ばかりが熱くなっているのですが、空回りしている部分もあって、そんな気がして、幾度も、「私は何をやっているのだろう？」と思った時期もありました。

委員の方々、それからまちサポの方々、みんな今日もいろいろ準備して頂いているわけですが、田熊さんや、皆さんに支えられて、何とかやって来たという感じです。

正直なところ、私自身は、先ほども申しましたが、何か「これをやりたいんだ」というようなことがあった訳ではないのです。関わっているうちに、巻き込まれて行ったという感じです。

これは、自分でも不思議な感覚で、今日も、皆さんの発表を聴いていると、皆さんは、自分がやりたいものを持っていらっしゃる。でも、私はそうではなく、巻き込まれているうちに、私がやっていくことも何かあるのかな、と言う感じだったのです。

皆さんも、やりたいことがある時は、それでいいのですが、それはすばらしいことですが、もし、それが無い時は、どうぞ、肩の力を抜きながら、じっくり考えられて、時には巻き込まれながら、それを承知で、けれども他に2つとないような活動をやって頂ければと思います。

私自身も、また、何らかの形で、ご一緒させていただければと願っております。

どうも、ありがとうございました。

■ 編集室の小窓から

この千代田まちづくりサポートの『サポート通信』には、最初の頃から関わらせて頂き、2004年には活動の記録『走れ!まちづくりエンジン』(株:ぎょうせい刊)を出版しました。初代審査会会長の卯月先生や北沢先生、作家の森まゆみさん、平岩さん、東電の鎌倉さん等と共に、三原さんや山岸さん達と楽しい編集作業をしたのも貴重な思い出です。

まちサポは休止になったと聞き、残念だけれど、今の時代では仕方が無いと思っていたのですが、突然、伊澤さんから、「再開します」と電話が入り、驚くやら嬉しいやらでした。

物事を再開するのは、開始するより大変なこと。久々に参加すると、特に若い方がしっかりと受け継いでいて、創始者達の「新しい公共」と謳った理想を皆さんが汲み取り、気概を受け止め、更に展開しようとしている様を目の当たりにして、ある感銘を受けました。

多少、最初から拝見してきた者としての率直な感想は、再開後は学生さんの活動が増えたということ。まちづくりが若い人たちでなされるのは、まさに頼もしい限りです。ただ、先ほどもご指摘があったように、学生が卒業し勤めた後も活動が維持されるか、というのが課題ではないかと思います。

もう一つ、以前の活動では、千代田に住んでいる普通の主婦の方や高齢の方が、町の美化とか子供の遊びや安全等を、極めて素朴な形で、しかも3年の間には、それを発展、進化させて、続けておられたのが印象に深く残っています。80歳を過ぎた女性が、「傾聴ボランティア」等をなさり、パソコンもインターネットも使わない地道な活動に、目を見張る思いでした。

千代田の活動は息長く続いていってほしい。そして若い方から高齢の方まで、幅広く暖かい活動がこの地で生まれ、ひき継がれますように。自分だけでなく、他者の事、社会の事を考えて生きておられるすばらしい皆さんに、五月の風と共に心からのエールを送りたいと思います。

(編集室風栞舎・柏原　怜子)

■賛助会員募集中です!!

公益財団法人まちみらい千代田　賛助会員一覧(敬称略)

平成28年5月現在

【法人会員】

業種	会員名
金融	興産信用金庫
	西武信用金庫　神田支店
	(株)東京都民銀行　神田支店
	(株)東日本銀行　飯田橋支店
	みずほ信託銀行(株)
建築土木	(株)エコ・24
	(株)久保工
	(株)竹中工務店
	(株)ナカノフドー建設
建設設計	(株)アズ・リノベテック
	(株)楠山設計
	(一社)改修設計センター
	(一社)東京都建築士事務所協会千代田支部
	パシフィックコンサルタンツ(株)
緑花・環境	日産緑化(株)
	(株)日昇緑化研究所
広告代理	(株)フィレール
不動産	エヌティティ都市開発(株)
	住友不動産(株)
	天翔ビルディング(株)
	プラットフォームサービス(株)
	三井不動産(株)
	三菱地所(株)
	安田不動産(株)
IT関連	(株)メディアリンク
コンサルタント	NPO都市住宅とまちづくり研究会
	(株)パシフィック総合開発研究所
その他	(株)i-tec24
	(株)イサミヤ
	ウェブリオ(株)
	(有)エイアイ企画
	(株)エス・エー・ピー
	管理費インシュア(株)
	(株)弘周舎
	ゴージョージャパン(株)
	(株)こどもの館
	(株)コンベンションリンケージ
	(株)サガワ
	鈴新(株)
	(株)TALO都市企画
	(株)テンプルボーイ
	東洋美術印刷(株)
	(株)巴商会
	(株)日精ピーアール
	(株)ネットビジョン
	ハネクトーン早川(株)
	(株)フォトロン
	(株)フロンティアコンサルティング
	富士ゼロックス(株)
	フジマイクロ(株)
	(一社)マンション管理組合支援センター
	三喜産業(株)
	ヨシモトポール(株)

【個人会員】

飯塚　克治
池　俊郎
浦田　泉
大塚　茂
加藤　武夫
小池　譲二
小林　勝彦
小林　誠
瀬川　昌輝
武　ちひろ
立山　光昭
塚越　茂
戸田　豊重
二木　憲一
堀部　剛正
幕　亮二
三浦　博子
宮園　耕二
三輪　瑛子
若林　尚夫
他7名

(法人:53 個人:27 計:80)